

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動器理学療法学			時間数	90
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	3
担当講師	本田隆広	取得資格	理学療法士		
		実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	経験年数	20 年
授業内容	① 運動器疾患の病態、症状に対して知識を養う。 ② 各種運動療法の適応や方法を学ぶ。				
到達目標	① 各種検査・測定を基盤の上に、理学療法の評価の重要性に気付ける。 ② 各種疾患、治療時期に応じた理学療法が理解できるようになる。 ③ リスク管理に対して、何故そのような対応が必要となるのかを分かるようになる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	膝・下腿骨骨折(636p～638p)症例レポートからの展開
2	膝・下腿骨骨折(168p～189p)、骨折の分類、骨折名の学習、免荷の必要性。
3	足関節捻挫(656p～658p)症例レポートからの展開
4	足部・足関節疾患の病態。運動学や機能テストの理解。
5	橈骨遠位端骨折(630p～632p)症例レポートからの展開
6	橈骨遠位端骨折、手根管症候群の病態。握力と対立動作機能の理解。
7	肩関節周囲炎(645p～647p)症例レポートからの展開
8	肩関節周囲炎、肩腱板損傷の病態。各種運動療法の理解と実施。
9	膝関節疾患(651p～655p)症例レポートからの展開
10	膝靭帯損傷後の機能テスト、運動療法の理解と実施。
11	変形性股関節症(639p～641p)症例レポートからの展開
12	変形性膝関節症(642p～844p)症例レポートからの展開
13	姿勢観察と関節機能テスト、筋機能テストの理解と実施。
14	腰部疾患(非特異的、神経根症、脊椎圧迫骨折)の特徴の理解。骨盤周囲トレーニング
15	理学療法プログラムの立案について

テキスト 参考書等	crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 理学療法評価学、病気がみえる⑩運動器・整形外科 徒手筋力検査(MMT)
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	学習ノート提出、小テスト 筆記試験 *令和3年度前期終了時点で、後期授業内容の見直し有り。